鎌ケ谷市市民活動紹介冊子

Gaya.

— がや —

コロナ禍での
地域活動

Vol.4
2022

表紙デザイン：千葉商科大学 政策情報学部 夏見俊輝

コロナ禍での地域活動

2019 年末から「新型コロナウイルス感染症」が世界規模で拡大し、瞬く間に日本国内にも感染者が増え、日常生活にも影響がでました。

2020 年 3 月。鎌ケ谷市内の公共施設が利用できなくなり、市民活動団体・自治会・サークル等のあらゆる地域コミュニティ活動が停止状態に追い込まれる事態となりました。

日常がガラリと変わり、まずは命と生活を守ることが優先でしたが、半年もすると生活の中に歪みも出始めてきました。人と人が出会い、ふれあい、場を共有するという当たり前にしてきたことが制約され、新たに知り合う機会も激減してしまいました。

いつ終息するのか先が見えない状況のなか、私たちは鎌ケ谷市内の地域コミュニティ活動がどのような影響を受けているかの実態と、今後どのような支えがあれば乗り越えていけるのかを考えるためのアンケート調査を行いました。ご協力いただきました市民活動団体・自治会・サークル・個人のみなさま、本当にありがとうございました！今回の Gaya 4 はその調査の結果報告号として、今までとは少し違った内容でお届けいたします。

私たち鎌ケ谷マネジメントラボは…

新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人が集まることが難しい、話す機会が減ったなど、今まで当たり前だったつながり方が変化していると考えました。　そこで、鎌ケ谷市で活動する組織や団体の皆様の活動にどのくらい影響や変化が起きているのか、シニア、子育て世代の生活感にどれくらい影響があるのかアンケート調査を行うことに致しました。本調査の結果については、千葉商科大学の戸川和成助教（同大学政策情報学部）にご協力いただき、調査報告書を作成するほか、戸川ゼミナールの学生にコロナ禍における活動のアイデア等の提言をしていただきました。皆様の参考になると嬉しいです。

Gaya.

鎌ケ谷市　市民活動紹介冊子
Gaya －がや－ Vol.4

発　行：2022 年 2 月
発行元：
一般社団法人 鎌ケ谷マネジメントラボ

1. 鎌ケ谷市市民活動推進課×戸川先生　ざっくばらん対談 …… 3

2. データからみえる、コロナ禍の地域活動 …… 5

3. 現場の声を聞く―ヒアリング調査からみえた市民活動の“弱み”と“強み” …… 9

4. コロナ禍の地域活性化に向けた 5 つの提言 ……13

5. 〈施設紹介〉鎌ケ谷市中央公民館 ……15

編集後記 ……17

鎌ケ谷マネジメントラボとは ……18

アンケート調査は鎌ケ谷市と共催で行いました。
Gaya 4 は千葉商科大学の「2021 年度地域志向活動助成金」に採択され、制作しています。
同大学・政策情報学部の「戸川ゼミナール」「吉羽ゼミナール」の学生と一緒に作成しました

1 鎌ケ谷市市民活動推進課×戸川先生　ざっくばらん対談

「新型コロナウイルス感染症により、影響を受けた市民活動団体・自治会・サークル等のアンケート調査」の結果を改めて対面にて鎌ケ谷市市民活動推進課へ報告に伺いました。

その際、平野課長と山本係長に鎌ケ谷市のこと・コロナ禍におけるコミュニティ活動のこと等、ざっくばらんに色々とお話を伺いました。

甲斐―　今回のアンケート調査では、鎌ケ谷市に共催をいただけたこと、とても感謝しています。また、戸川先生のお力添え無しでは到底ここまで進んでこられませんでした、ありがとうございました。

戸川先生―　僕は「都市政策とガバナンス」を専門に研究していて、その傍らでゼミ生と一緒にまちづくりの現場に出かけています。本日は、鎌ケ谷市さんとかまらぼさんと共催で調査をした結果を報告できる機会をいただきましてありがとうございます。研究者にとっては、現場に赴いて研究できることが大変貴重なことで、このようなご配慮をいただき、感謝申し上げます。

甲斐―　今回のアンケート調査によって、人とのつながりが大事であること、つながりをきっかけにするとコミュニティに参加しやすいことが鎌ケ谷市を中心に調査したデータによって証明されました。それが一番大きな成果だと思っています。活動者として現場で動いている中で実感していたことが改めて数値として示されたことを受け、やはり中間支援的な活動が必要なんだと思いました。

平野課長―　行政という立場から活動を支援するにあたり、「地域のマネジャーとして働く」ということは意識しています。経営（マネジメント）学部出身ですので（笑）。コロナ禍においては、市のイベント・会議や公共施設の対応方針に関する文書を、自治会さんや市民活動団体さんに何回も発出しました。状況に応じて市や国での方針が変わる度に情報共有ができたことで、コロナ対応の足並みをそろえることができたのではないかと思います。

戸川先生

平野課長

甲斐―　コロナ禍でも止まることなく活動を続けていた自治会さんですが、オンラインの導入については消極的で、「導入しない、サポートもいらない」という回答が多い印象でした。

平野課長―　自治会さんを対象にしたZoomやホームページ作成の講習会を最近（※2021年11月取材当時）実施しました。ホームページについては情報発信の手段として強化したいという思いがあります。講習会の中で、がんばってみようかという声もあったので期待したいところです。皆さん地域課題について真面目に色々考え、危機意識も持っている。自治会さんに動いていただくからには担当課も全力で頑張ります。今回色々まとめていただいたことを参考に、自治会さんや市民活動団体さん、中間支援団体のかまらぼさんと一緒に、地域課題への取組み

進行：甲斐（一般社団法人鎌ケ谷マネジメントラボ　※以下かまらぼ）
市民活動推進課：平野課長・山本係長
千葉商科大学：戸川先生（政策情報学部）

を進めていきたいと思います。

戸川先生―　実は、大都市の東京 23 区であっても、中間支援組織がひとつもない特別区だってあるんですよ。そういった区では、非営利法人をつなぐ連絡協議会を作り、その会を通じて、同じ目的を持った活動の報告や PR 活動を行い、団体の間をつないだり、役割分担などして、活動の支援を行っています。

ぜひ、鎌ケ谷市でも自治会、市民活動団体、中間支援団体も交えたメンバーを一堂に会する「協議会」などを作ってみてはいかがでしょうか。立場の異なる団体の間で情報共有や意見交換を頻繁に行うことも必要であると思います。今回、事例紹介されている活動をみると、「それぞれが別の活動をしているかと思っていたが、実はやっていることに重なるところがあったよね。」という共感があるように感じます。それが活動を広げていくきっかけにもなるのではと思います。

甲斐―　コロナ禍での市民活動への影響についてどう感じましたか？

山本係長―　コロナ禍では活動の自粛に伴うモチベーションへの影響があったと思いますが、熱意は失われていないことが報告書から見て取れます。コロナ禍の前は活発に活動していた団体ほど、影響を受けていたように思いますが、目的を達成しようと手法を変えて活動を続けているところもあり、力強さを感じました。今回このような調査結果をいただきましたので、これから市民活動を「どうバックアップしていくのか」につなげていきたいと思います。

戸川先生―　コロナ禍によってマイナスの影響を受けた市民活動が多かったのですが、逆に活動ニーズを増やしたという事例もあるんです。例えば、ひきこもり対策の活動で、直接会えないので LINE を導入したら利用者が増えた、電話では話せなかった人と LINE ではやりとりができたという事例がありました。

山本係長―　コロナ禍の別の影響として、今まであまり大きな声で語られてこなかった地域課題について、事例が増えたことによって浮き彫りになってきた感がありますね。そういった課題に気づいて行動を起こす人も現れているので、今後さらに市民活動の幅や奥深さが広がっていく期待があります。

戸川先生―　鎌ケ谷市の良さに関しての意見はここに居るみなさん共通して積極的な感じがしますね。

平野課長―　鎌ケ谷市の一番の魅力は「住みやすさ」だと思うんです。住みやすいとすら感じないほどの自然な住みやすさ（笑）。そして、住みやすくするために、自治会さんや市民活動団体さんが頑張っていると感じます。

戸川先生―　鎌ケ谷市の密度感のバランスがよいのかもしれないのではないしょうか。行政職員側の人数、市民の人数がちょうどよい感じで、活動したい人が活動しやすくなっている規模だとも思います。行政と自治会さんや市民活動団体さんがちゃんと話ができていて、相談しやすい距離感であることも鎌ケ谷市の魅力だと思います。

甲斐―　これからもちょうどよい距離感で、行政と市民が一緒になってステキな鎌ケ谷づくりを進めていければよいなと思います。

平野課長―　鎌ケ谷市と千葉商科大学さんとは「包括的な連携に関する協定」を結んだところですので、ぜひこれからもよろしくお願いいたします。

甲斐―　本日はありがとうございました。

2 データからみえる、コロナ禍の地域活動

千葉商科大学政策情報学部
助教　戸川 和成

新型コロナウイルス感染症に関する影響調査の実施

コミュニティの希薄化や共助意識の低下が叫ばれる現代において、新型コロナウイルス感染症の脅威がより一層の人々の不安と不信を煽る現在、人間関係はひどく毀損してしまったのではないでしょうか。それは対面の人間関係を念頭に置く、コミュニティ活動を衰退させかねず、創意工夫に基づく連携と協働の取り組みを回復させる方法が再検討されるべきでしょう。危機に直面している現在、暮らしの安心を支えるコミュニティ活動をそのように継続させられるでしょうか。そうした問題意識のもと、鎌ケ谷マネジメントラボ（代表：甲斐貴子氏）が鎌ケ谷市と共催で実施した「新型コロナウイルス感染症により、影響を受けた市民活動団体・自治会・サークル等のアンケート調査（表 1)」を用いて、コロナ禍の市民活動の実態にを迫りたいと思います。

調査名	新型コロナウイルス感染症により、影響を受けた 市民活動団体・自治会・サークル等のアンケート調査		
調査主体	鎌ケ谷マネジメントラボ（代表：甲斐貴子氏）が鎌ケ谷市と共催で実施		
調査対象	市民団体	市民	市民
調査実施日	2021 年 1 月～ 2 月	2021 年 1 月～ 2 月	同左
調査方法	郵送法（配布・回収注 1）	Web 調査 （Google フォームを利用 ）	同左
抽出方法	全数調査	全数調査	全数調査
母集団	登録団体の計 310 団体 および自治会（N=23 団体）注 2	「活動・参加者名簿リスト」に 掲載された市民 （N=140 名）注 3	「活動・参加者名簿リスト」に 掲載された市民 （N=160 名）注 4
配布数	333	140	160
回収数	213	117	40
有効回収数	213	117	40
（回答率）	63.90%	83.50%	25.00%
調査項目	1. 団体概要（会員人数、団体分類、活動分類、活動目的など）、2. コロナ禍の影響（団体運営および活動の変化、つながりづくりの状況、活動の継続意識など）、3. 求める支援内容、4. 活動状況への認識の変化（自粛中における住民との協力、活動の必要性、地域 / 活動メンバーについて）	1. 個人属性（年齢階層、子どもの状況、性別、同居有無など）、2. 活動参加の状況（地域コミュニティへの参加、自粛中の活動変化、参加していない理由）、3. 活動参加者の認識（孤独感や心細さを感じる / 感じない理由、相談と対応方法）、4.SNS・オンラインの利用について（利用状況、活用した効果、活用の良い点 / 悪い点、活用しない理由、今後の活用への期待）、5. 日常的なつきあいと相談（近所、友人、家族、親族、職場同僚）、6. 地域状況に対する認識（地域活動・まちづくりの活発さ、地域の苦情・相談、自治会の必要性）、7. 自粛中の地域環境への評価（活気・賑わい、空地・空き家、治安、街頭でのごみや不法投棄物についてなど）、8. 外出行動の変化（コロナ禍以前 / 緊急事態宣言下）、9. 飛沫感染防止の取り組みなど	

注）1：回収は、調査回答者の協力のもと、調査票の返却を行った。
2：本調査は鎌ケ谷市の登録団体および鎌ケ谷市の自治会を対象としている。
3：本調査は鎌ケ谷マネジメントラボが管理する「活動参加会者名簿」（対象者は、これまでのイベントに関わったことのある者またはイベント参加者を含む）を対象としている（子育て世帯 60 名および高齢者 80 名）。
4：本調査は一般社団法人アイルゴーが管理している「イベント参加者名簿」に記載された 160 名の市民を対象としている。

表 1　調査概要

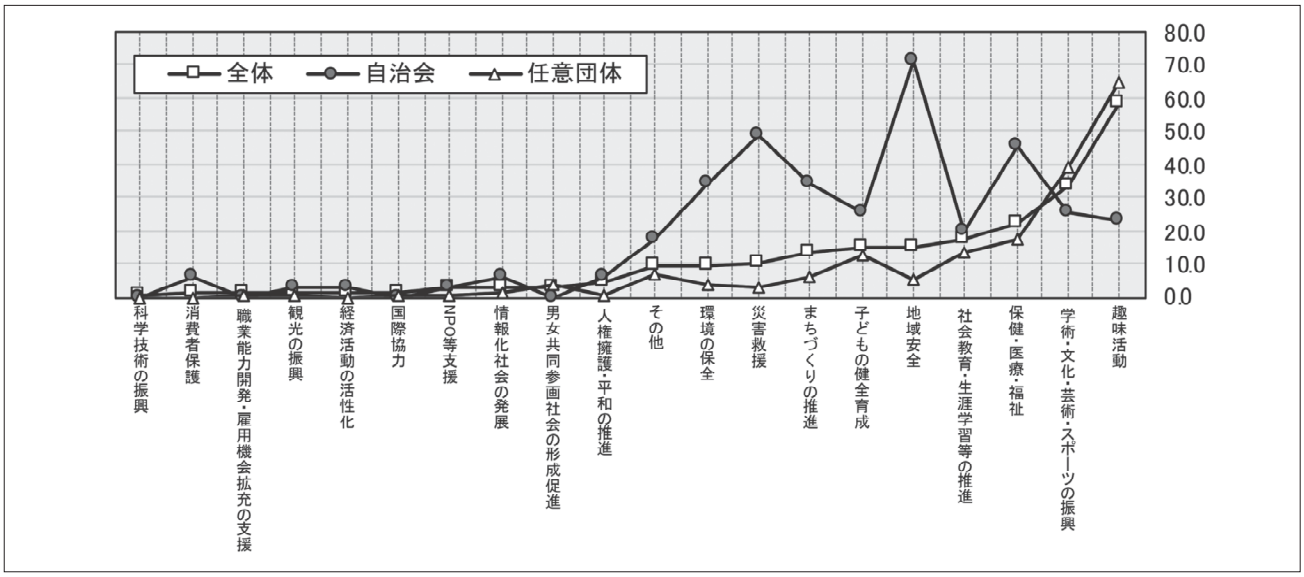
単なる親睦を目的にするだけでない、多様なニーズに対応する市民活動

今回の市民団体調査によれば、N=213 団体のうち、「任意団体」が過半を占め（57.7％）、次いで「自治会」が 16.4％、「NPO 法人」が 4.2％、「協会や実行委員会など」が 2.3％、どのカテゴリにも分けられない、「その他団体（その他法人含む）」が 15.9％でした。

構成員の平均年齢の 8 割は「60 代」が中心であるため、若年層の担い手を増やすためには活動を知ってもらうことから始めるなどして、世代間交流を促すしくみが必要です。加えて、団体・組織の活動分野[1]について「1．保険・医療・福祉の増進」から「18．その他」の項目によって把握し、回答の結果をまとめたものが図 1 の結果です。

団体・組織の「全体」では、過半数以上が「趣味活動」を主な取り組みとする一方で、「学術・文化・スポーツの振興」、「保健医療・福祉」、「社会教育・生涯学習等の推進」を活動の目的に選択する割合が多いようでした。また、自治会は「地域安全」を選択する組織が 7 割程度と多くいました。つまり、鎌ケ谷市で活動する団体・組織は会員同士の親睦を深めるだけでなく、地域福祉や生涯学習の活動を中心としていることが任意団体にも共通してみられます。

1.「活動分野」は特定非営利活動法人の活動分野をもとにしている。それは内閣府 NPO ホームページ、「特定非営利活動法人の活動分野について」（https://www.npo-homepage.go.jp/about/toukei-info/ninshou-bunyabetsu、アクセス日：2021 年 3 月 30 日）を参照。



出所）筆者作成
図 1　団体別の活動分類（「該当」の％、並び方は「全体」割合に応じて昇順）

活動自粛からみえた、“ 停滞傾向 ” にある組織運営の意識変化

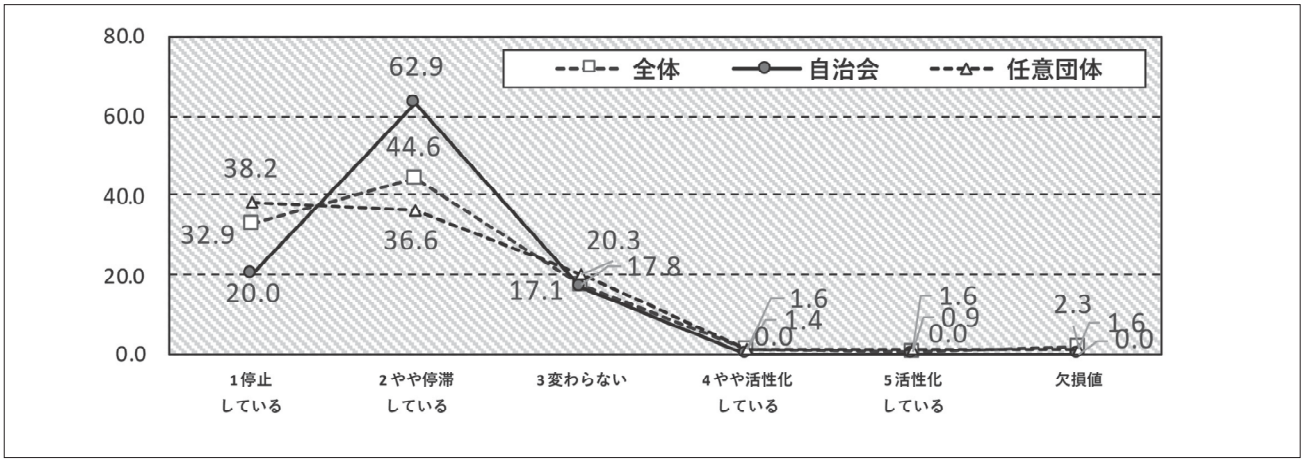


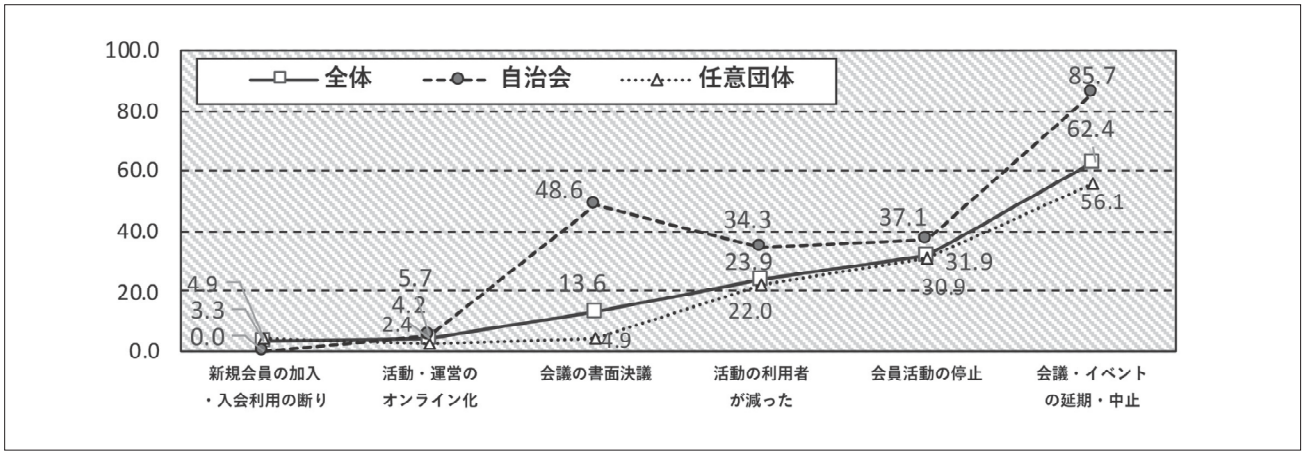
図 2　活動の運営に対する意識変化

では、コロナ禍は団体リーダーの活動継続意識をどのように変化させたのでしょうか。ここでは団体運営の現状を「1. 停止している」から「5. 活性化している」の5件法によって把握した、図2の「運営に対する意識状況」をもとにして考えます。

それによれば、「停止している」、「やや停滞している」という回答が多いです。これは、ステイホームやソーシャル・ディスタンスの呼びかけに応じて団体・組織が活動の自粛を余儀なくされていた結果でしょう。

では、活動の停滞はどのような運営内容にみられるのでしょうか。

進まない“オンライン交流”と“つながりづくり”の居場所確保の問題



出所）筆者作成
図3　コロナ禍の社会変化が及ぼす活動への影響

コロナ禍の社会変化が活動に及ぼす影響について、その内容を「1. 会議やイベント等の活動を延期・中止した」から「その他」の項目（複数選択）によって把握しました。

図3（「全体」の割合を昇順に整理）によれば、「会議・イベントの延期・中止」を過半数が、次いで、「会員活動の停止」や「活動の利用者が減った」という回答が多いようです。とりわけ「自治会」に多く、「会議を書面決議にした」を48.6%が回答していました。

つまり、活動を簡素化させて感染対策を行うけれども、その弊害が日常的な活動に表れてしまいました。加えて、技術の導入も円滑に進められない結果、「活動・運営のオンライン化」しえたのは2.4%から5.7%程度に過ぎないようです。どのようにすれば、オンライン技術の運用方法を高齢者中心の市民活動に促すことができるのでしょうか。

また、深刻なのは“つながりづくり”が滞ってしまったことです。団体内の交流等、つながりの度合いを「1. 今年度は全く交流できていない、または減っている」から「4. その他」によって把握した図4によれば、「今年度は全く交流できていない」という団体が過半数を占め、「オンラインを利用して機会を作っている」よりも、「対面の機会をなるべく作っている」という回答が次いで多いことからも、居場所づくりの難しさが見て取れます。

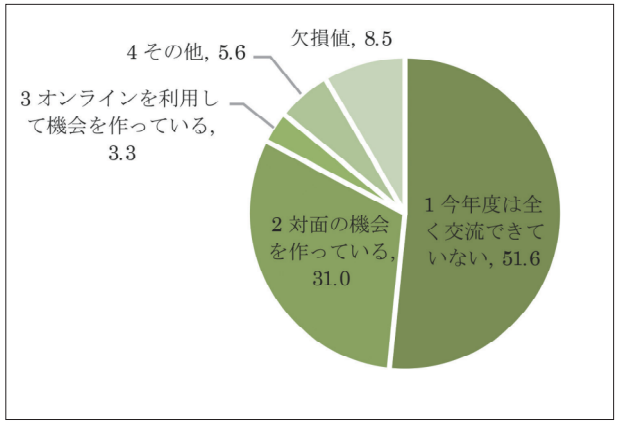


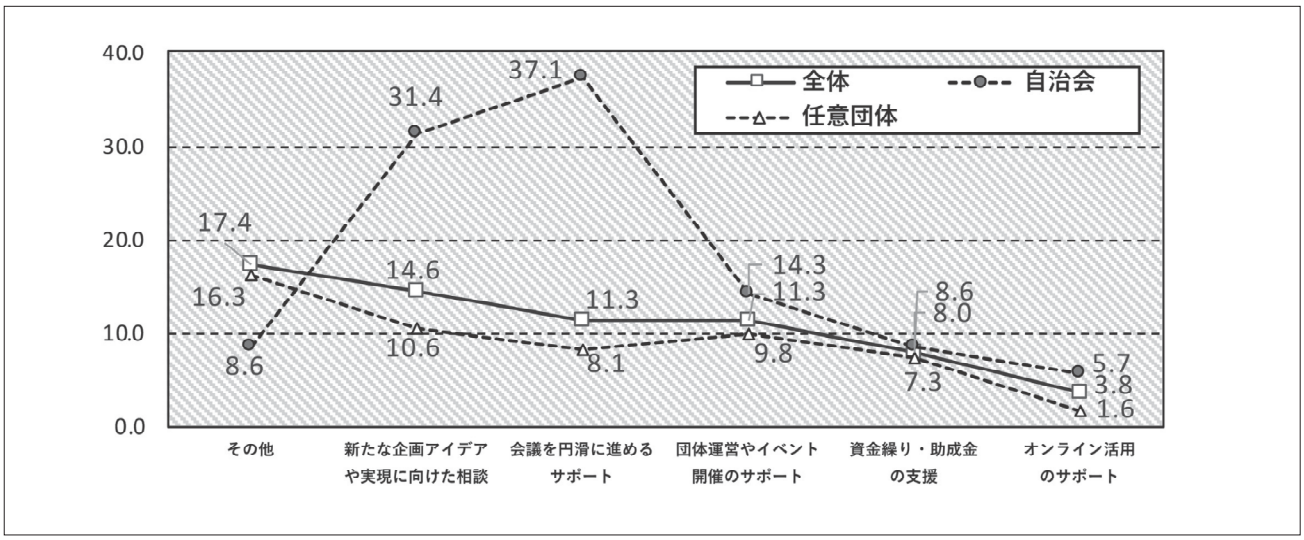
図4　団体内の交流・つながりの程度

どのような支援を団体・組織は求めるのか

では、団体・組織はどのような支援を求めているのでしょうか。今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くと想定した「活動を再開するにあたり、どのような支援があれば受けたいですか」という設問の集計結果（図 5）をみると、次のことがいえるでしょう。まず、「オンライン活用のサポート」を求める声は、さほど多くはなく、全体でも 3.8％程度でした。

しかし、「団体運営やイベント開催のサポート」を求める自治会は 14.3％と他と比べて多く、「会議を円滑に進めるサポート」には 37.1% も回答していました。つまり、書面決議に活動を簡素化させた現状を懸念し、よりよい会議運営の方法を求めているのでしょう。また、「新たな企画アイデアや実現に向けた相談」が自治会は 31.4％であるため、個別のケースに応じた新規の企画やアイデアを促す支援が必要でしょう。

さらに、任意団体は「その他」が 17.4％と多いです。全てではありませんが、その記述回答をみると、「コミセン（コミュニティセンターの略称）の利用時間を可能な限り伸ばしてほしい」、「会議室の確保」、「密になることを避けた活動が必要になるので、利用できる時間が少ない)」や「ニーズ調査を通じて市民の啓発や活動の発信への後方支援」を求めています。



出所）筆者作成
図 5　活動支援への期待

みえてきたコロナ禍における市民活動の課題

本稿の知見を踏まえると、地域社会を担う団体活動を支援するには、「オンライン技術の導入」方法と「会員間のつながりづくり」の確保に力を入れる必要があるでしょう。また、若年層と高年層の活動再開に対する認識のずれやオンライン技術の活用スキルの差を埋める方法も必要でしょう。新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域社会への悪影響を取り除くためにも、市民、団体・組織、市の間を紡ぐ協働のしくみづくりが地域社会には欠かせません。

また、この機会にこれまでの活動のうち、不要な取り組みを見直してみたらいかがでしょうか。少しでも感染リスクを防ぎながらどのようにして活動を少しずつ再開することができるのでしょうか。そういった視点を踏まえ、具体的な支援方法に必要な手立てを一緒に考えていきたいと思います。

3 現場の声を聞く―ヒアリング調査からみえた市民活動の“弱み”と“強み”

データへの問いかけ―つらいのに意識は“変わらない”、“前向きになった”のはなぜ？

実は、前述の「活動の運営に対する意識変化」グラフには、213 団体のうち、1 割強から 2 割程度の団体がコロナ禍以前と“変わらない”活動意識を持ち、2 ～ 3 団体は“前向きになった”と答えていました。どうして、コロナ禍においてもなお、活動に明るいのでしょうか。

また、オンラインの交流活動を可能にした団体もいました。その点に着目し、筆者らは実態を把握するために、郵送調査に次ぐ、ヒアリング調査を実施しました。

具体的には、アンケート調査の設問 8 をもとに、コロナ禍においても活動意識に明るい数団体・組織（①今まで通り活動を続けたいし、②新規の取り組みを始めたいという団体）を抽出し、調査依頼に協力を頂いた団体代表者を中心に、聞き取り調査を行いました。本稿では、その事例を紹介します。

	会員規模	会員構成（平均年齢）	今後の活動意識	オンラインの導入
南初富連合自治会	100 人以上	未回答	今までの通り	導入しない
鎌ケ谷第二区連合自治会	100 人以上	40 代	今までの通り	導入してみたいが、現在導入できていない
北初富第一自治会	100 人未満	60 代	今までの通り	導入しない
東中沢地区町会	100 人未満	60 代	新規の取り組み / 活動強化	未回答
鎌ヶ谷スケートボードの会	10 人以下	20 代	新規の取り組み / 活動強化	未回答
鎌ケ谷語り部協会	30 人以下	50 代	今までの通り	オンラインを利用して機会を作っている

表 2　調査実施団体の一覧

帰属意識をどのように紡ぐか―浮き彫りになった後継の問題

“二区連”という愛称を持つ鎌ケ谷第二区連合自治会。連合自治会長の髙野氏は連合自治会長になって 3 年。コロナ禍では例年の会議運営をがらりと変え、それでも例年 8 回行う会議を 5 回実施させました。

しかし、緊急事態宣言直後は、「雰囲気的に、やりにくいですね。どの単位自治会も自分の自治会をしょっているから、慎重。一方で、気を付けてやれば問題ないという住民の声もある。この温度差が活動を難しくさせる」。また、課題は「“集まらないことでコミュニケーションが互いにとれない」”ことだといいます。単位自治会長同士のつきあいも希薄になるから、連合自治会への帰属意識も薄れる。「祭りが終わると反省会と称してお酒を飲みながら、親睦を図れた。それが僕らにとっては新しい役員を見つけるのに良い機会だった。南初富連合自治会も同じように。」と連合自治会長の神尾氏は答えます。

「行事をやると懇親会で通常とは違うコミュニケーションがとれるが、何もできていない」。コロナ禍は自治会運営の後継者探しを難しくさせたようです。

やれることはやる―創意工夫の努力が役員メンバーの結束を紡ぐ

「役員の間で結束がある」。だから運営の活動意識を“変わらない”と答える高橋氏。しかし、課題は“単位自治会として、あるいは2,200名を含んだ連合自治会としての関係性維持が難しい”ことにあるといいます。そこで、“二区連の中にいるんだ”という意識を奮起させるべく、市が全面的に実施しなかった止めた防災訓練用のに向けた備蓄食料を単位自治会に配布したり、“お祝いの記念品だけは渡したい”という一心から敬老祝賀会の対象者の名簿を作成し、連絡・配布を各自治会の班長さんと連携して実施したりしました。だからこそ、「そこらへんのコミュニケーションは（コロナ禍でも）まだとれたかな」と感じており、次は「子どもの芋ほりは密にならないようにやろうかなと思っている。今年はできればやっていこうとしているから、（活動意識）は変わらない」と回答された。

活動に寛容な温かい住民に囲まれた“北初富第一自治会”

「コロナワクチンの接種が済んで、どの程度やれるかな」と、先行きを見通す尾辻（おつじ）氏。月1回の会議も工夫し、48人の班長を2組に分け、密を避けて理事会を実施し、新役員の承認も行いました。「会員の方は活動を気にされておられないのか」と尋ねると、「現在は月1度のお茶会が中止になっているが、そういうのをいつから開くのかという声があるほど。（活動に対しては）皆さん集まってくれたとき時に了解してくれたと思う」と、活動に理解ある住民の様子を話していました。

さらに、“毎月第一土曜日”は道路の横溝の側溝掃除を欠かさず実施しました。副会長の西林氏は「月1回、6グループにばらし、原則1グループが、その月に担当する場所に当たる」と説明した。「コロナ禍でも活動に協力的な人が多いのか」と聞くと、「そうですね」と遠慮のない回答がありました。やはり、非日常の中で、日常の活動を続けるためには住民の協力が欠かせないのではないでしょうか。

（左）北初富第一自治会 西林副会長　（右）尾辻会長

円滑なオンライン技術の導入と交流支援が必要か

一方で、オンライン技術の導入には消極的であった尾辻氏。「自治会の中には（導入は）無理だと思っている。社会福祉協議会とか市に協力を依頼する方法があれば、行かなくても利用できるのかな。」と支援者の存在を頼りにしていました。最近の自治会の様子をうかがうと、「あまり若い人はいないですけど、かつて（IT関連が）得意であった副会長も他の場所に移動されてしまった」ようで、少し困っている様子でした。「何か勉強会を（支援者が）開催してみたら使ってみたい、と思われるのか」と尋ねると、「利用できる者は自治会の中に何人くらいいるのだろうか。精通した方がいれば、ちょっとしたことができて良いのですけど」と、首をかしげるようであった。

中間支援の手を借りれば活動は上手く継続できるのか？

鎌ケ谷語り部協会の会長を務める佐藤氏。「コロナ禍で活動が停止し、参加者の脱退を何とか引き留めよう」と考えて始めた“YouTube 配信”。会のメンバーにとってはすべてが初めて。しかし、“その設定の仕方は伊藤氏（鎌ケ谷市認定地域づくりコーディネーター）に支援を受けたという。最初の壁は“オンラインの機会が未経験”のメンバー。「まずは各自が持っているスマホを使ってできることを考え、やってみましょう」という指導を受けた後、スマホでの zoom の練習をしました。各家庭から皆さんと会議を開いて 1 時間の交流ができたことをきっかけに、スマホでのを利用した練習会を重ね、2021 年は、オンラインで活動を再開。現在、メンバーの皆さんに配布して、語りを練習してもらおうと教材のＤＶＤ音源を制作中です。「既に始めている 3 名の方は一人語りもテープにして発表したいと言うほどなんですよ」とのこと。これは想像を超えた好事例といえるでしょう。

鎌ケ谷語り部協会　佐藤会長

コロナに負けていられない―強いリーダー・シップが頑健な地域社会を育むか

“コロナに負けてられない”。開口一番、月例会議はできることをしていこうと、奮起する渡辺氏。東中沢地区町会の会長です。「市の会議は中止でしたが、会議がダメになるなか、別の名目を立て、討論会や意見交換を行いました」と話します。そして、「一ヶ所個の町内だけやるっていうのはだめ。例えば一丁目はやって三丁目はやらないっていうのは認められない」という。地区として、町として、その統一性を目指す渡辺氏の気迫はコロナ禍の停滞感を感じさせなかった。活動の中止が余儀なくされるなか、かくも強いリーダー・シップがあるから地域を守ることが可能なのでしょう。やはり属人的要素は頑健な地域社会をつくる礎であるはずだと強く感じました。

東中沢地区町会　渡辺会長

スポーツとして、青少年の教育にスケートボードを活かしたい

2020 年 6 月に市に団体登録をした鎌ヶ谷スケートボードの会。代表の山崎氏は市の青少年健全育成を目標に、スケートボード専用パークの市内設営を目指しています。趣味が活動に転じたきっかけは、「コロナ禍にこもりがちになってしまったこと」と話します。スケートボードはオリンピック種目にも選出され、趣味として遊ぶ子どもが増えた一方、アリーナの入り口前付近で集まって遊ぶ人者のマナーがひどくなってしまったことを懸念している山崎氏。そこで、趣味の幅から活動へ拡げ、“スケートボードをする子たちの心身の育成も含めて、マナーを守るためにも、一つの会を作ろう”と思い立ちました。現在は単に遊び場を求める団体としてではなく、鎌ケ谷市での青少年健全育成を念頭に、正しいスケートボードの扱い方の普及を目指しています。ぜひ、暮らしやすい鎌ケ谷のまちなみの一つとして、スケートボードを介した世代間の交流をみたいものですね。

鎌ヶ谷スケートボードの会　山崎代表

アンケート調査にご協力いただいた団体・組織一覧

1	特定非営利活動法人鎌ケ谷たんぽぽクラブ	52	フォークダンスしらゆり	103	鎌ケ谷橋自治会
2	特定非営利活動法人カナリヤ元気	53	マージャンクラブ　あがってなんぼ	104	道野辺第一区自治会
3	NPO 法人鎌ヶ谷 Jump up の会	54	秋桜琴の会	105	鎌ケ谷第二区連合自治会
4	鎌ケ谷ふる里創生会	55	鎌ケ谷市更生保護女性会	106	新山町会
5	NPO 法人かまがや地域情報の窓	56	レインボー卓球クラブ	107	鎌ケ谷グリーンハイツ自治会
6	認定 NPO 法人東葛市民後見人の会 鎌ケ谷支部	57	鎌ケ谷市放射能対策市民の会	108	道野辺第二区自治会
7	読書コスモス会	58	ホーオナオナ（フラサークル）	109	馬込沢自治会
8	写団「鎌ケ谷」	59	フロンティア未来 2025	110	鎌ケ谷駅前自治会
9	鎌ケ谷カメラクラブ	60	エコネットかまがや	111	中沢自治会
10	年金者組合鎌ケ谷支部　女性の会	61	えくぼ・ヘルスサークル	112	東中沢地区町会
11	ぶらり鎌ケ谷	62	五育総合研究所	113	受所自治会
12	鎌ケ谷朗読「はなしの小箱」	63	若手経営者ネットワークスマイルかまがや	114	南初富連合自治会
13	鎌ケ谷車いす点検整備ボランティアの会	64	心思踊西華流	115	北初富連合自治会
14	絵画蘭の会	65	和み着付サークル	116	粟野自治会
15	ヨーガサークル　呼吸の会	66	鎌ケ谷駅前マージャンクラブ	117	佐津間自治会
16	俊声会	67	桔梗の会（新舞踊）	118	東武鎌ケ谷自治会
17	IT サポート ありのみ	68	新若葉会	119	くぬぎ山連合自治会
18	生涯大 太極拳 泊	69	光の里笑福会	120	光の里自治会
19	英会	70	エスポアール	121	みどり自治会
20	楽山会	71	鎌ケ谷語り部協会	122	北初富第一自治会
21	雅び着付会	72	笑顔いっぱいシルバー元気会	123	鎌ケ谷市子ども会育成会連絡協議会
22	新舞踊徳寿会	73	ふれあい太極拳	124	家庭倫理の会鎌ケ谷市しきなみ短歌会
23	フラワーアレンジの会	74	ちぎり絵サークル	125	一般社団法人倫理研究所家庭倫理の会鎌ケ谷市中沢支部
24	鎌ケ谷おもちゃ病院	75	コスモス		
25	うたごえサロン・倶楽部	76	鎌ケ谷市ペタンク協会	126	一般社団法人鎌ケ谷青年会議所
26	親子でリトミック　はっぴーまーち	77	水仙会	127	コスモス会
27	歴史たんぽ	78	太極拳水曜会	128	チャットルーム
28	しの笛	79	アルページュ	129	珠算クラブ
29	ドランカーズ	80	浅漆会	130	ホイ、ホイ、ホア
30	さろん　はっぴー	81	桂喜会（将棋）	131	コール・リリエ
31	鎌ケ谷三田会	82	きらり太極拳クラブ	132	楽しいゲームサークル
32	保育サークル「コアラ」の会	83	粟野の森の会	133	東風会
33	鎌ケ谷市子ども劇場	84	碁楽会	134	鎌ケ谷将棋クラブ
34	3B ローズサークル	85	ハッピー健康体操	135	三味の会
35	Nature Club Fuji	86	アンスリウム（旧ハイビスカス）	136	二胡同好会ひまわり
36	カンタービレ	87	イエロージンジャー・レイ	137	カラオケ　みよし会
37	南初富囲碁楽好会	88	レフアの会	138	平成カラオケ会
38	鎌ケ谷ボランティアサークル　たんぽぽ	89	鎌ヶ谷スケートボードの会	139	ボーイスカウト鎌ケ谷第 2 団
39	橡山会	90	鎌ケ谷災害救援ボランティアネットワーク	140	楽しいヨガ
40	合唱サークル　てだぬふぁ	91	スキルアップ学習会	141	健康体操ふらっと
41	ストレッチヨガ　ひまわり	92	鎌ケ谷平和イベント実行委員会	142	アメリカンシャドウボックス
42	玉泉会	93	鎌ケ谷市華道協会	143	福むすめ
43	リズム＆ジャズダンス	94	鎌ケ谷市美術家協会	144	鎌ケ谷市整理ボランティアコスモスの会
44	気功と太極拳　「気とこころの会」	95	東武援護グループ　こだま	145	駅前カラオケ笑話会
45	鎌ケ谷スマートエイジング	96	東武鎌ケ谷自治会	146	東第一区住宅福祉援護グループ竹のこ会
46	シニア・ピア・なごみ	97	東中沢・受所つくも会	147	カサブランカの会
47	皇風煎茶禮式煎茶教室	98	リエール　Ｌｉｅｒ．	148	木曜クッキング
48	南部大正琴の会	99	鎌ケ谷駅前笑話会「囲碁将棋」クラブ	149	オルオルフラサークル
49	鼓調連	100	粟野米寿会	150	皇風煎茶禮式　香煎会
50	鎌ケ谷点訳友の会	101	タップダンスサークル　ティーリズム	151	第二福寿会舞踊部
51	ナニレフア	102	サットの会		

4 コロナ禍の地域活性化に向けた5つの提言

岩崎太一

役員間のつながりや役員と住民のつながりは市民活動の継続を促すか

ゼミの中で実施した鎌ケ谷市の団体・組織のヒアリングを通じて、役員の結束力や活動への積極性がみて取れました。それは工夫を凝らして班を２つに分けて総会を実施されたり、草むしりを上手に工夫して行う事例から読み取ることができました。以上のことから「役員の連携・運営がうまくいっている団体・組織ほど、活動意識が前向きかつ活動への継続意識が高い」のではないかという仮説を立てることができました。

対して「組織運営と役割分担がうまくいっていないと思う」と回答し、活動が停滞してしまっているとアンケートに答えた住民も多数いることも事実でありました。この分析結果を踏まえて、LINE（特にオープンチャット等）を利用した意見交換の場を設けることが必要なのではないかと考えます。

徳永睦美

南部晴香

オンラインの利便性は地縁団体に通用するのか

鎌ケ谷市の活動団体はコロナ禍で活動が停滞していてもオンラインの導入は進んでいないことや、オンラインの活用支援を希望する団体・組織が、記述統計の結果から、極めて少ないということが分かりました。

このことから「オンラインの導入をせず活動停滞している団体・組織はそもそもオンラインに対して前向きでなく、活用の支援を求めていない」という仮説が立てられるのではないかと考えました。実際に調査データを用いてみると、多くの団体はコロナ禍の影響で活動に停滞がみられるが、オンラインの導入や活用の支援を必要としていないことが伺えました。支援策としては、オンライン化の提案だけではなく、利便性を伝えることや操作の説明の場・環境を整えていくことが必要なのではないかと考えました。

川田尚輝

岡田直樹

引き継ぎ・担い手の問題

ヒアリング調査を踏まえると、鎌ケ谷市内の団体・組織は、コロナ禍の影響を受けて親睦を深める機会が減少し、それが跡継ぎ問題につながる可能性があると考えます。また、「会長の仕事が継承できないうちに任期を迎えてしまった」という話にもつながっていました。そのため「組織運営が厳しく継続に危機を感じている人ほど活動意識が少ない」という仮説が考えられるのではないかと考えました。

以上の仮説をもとにしてクロス集計分析を実施した結果、やはり、組織運営が厳しく継続に危機を感じているリーダーほど、「停止している＋やや停止している」という意識の割合が多いという結果が示されました。それに対する対策としては、会長の任期を伸ばし副会長の育成に努めることや、これまで活動を通じて協力することのなかった新たな団体と活動を連携できる余地を拡げ、地域内の一体感がさらに深まるイベントを開催することが挙げられるのではないかと考えます。

今回の調査とヒアリングを行ってきた戸川ゼミの学生が、
「コロナ禍」において地域を活性化するための提言をまとめました。

コロナ禍での自治会活動には適正規模があるのか、その支援方法を探る

鈴木拓斗

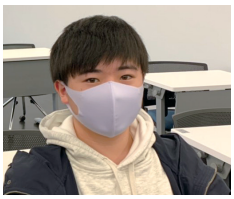
吉川幸也

ヒアリング調査を踏まえると、二区連と南初富自治会は連合自治会（複数の単位自治会が集まって成り立っている）のため、会員規模が大きく、自治会ごとの活動への温度差が生まれやすいことが分かりました。対して、北初富第一自治会は単位自治会であり、会員数も連合自治会と比べると少ないので、対策を取りながら無理のない活動ができると思いました。

以上から「自治会の規模が小さい方が活動への再開意識が高くなり、活動しやすくなる」という仮説が立てられます。それに関して、会員規模を数え、その規模が小さいほど活動意識は「変わらない」という回答が増える傾向が見えました。この仮説をもとにして考えると、例えば、いざ活動しようにも感染リスクの危険性から動きようがない数の規模で行動してしまっては、会の活動が立ち行かないことも多いのではないでしょうか。連合自治会のような大規模で活動することは厳しいため、グループ分けや意欲的な参加者・活動の希望者のみに絞るなど、活動や計画の見直しが必要であると考えます。

自治体と住民のつながり ～鎌ケ谷市内の団体にできる支援について～

宮川流星



横田隼平

ヒアリング調査によれば、鎌ケ谷市内の自治会には二つの知見があるように感じられました。二区連では非常に慎重な形をとっており、異なった意見を持った住民同士の意見の温度差が大きいように感じているようでした。その結果として、通常では会長会議を年に８回行っていたものを年５回に減少させています。周りの住民に配慮し、活動の可否に関して神経質になりやすいことにつながるため、一歩間違えると騒ぎになってしまうことがあり注意が必要です。北初富第一自治会では、今まで行ってきた活動に関して「再開はいつか？」という声が上がっており、ある程度活動を気にしている住民がいることがわかりました。この結果から、住民の活動に対する理解が自治会活動に必要だと考え、活動に対する住民の理解が大きいほど活動再開意識を押し上げている」という仮説をもとにして、クロス集計分析を行いました。必要な助言としては、活動をもっと住民の人に知ってもらうことが必要であると考えます。例えば、子育てをしている方や新住民に知ってもらう機会として、地域の喫茶店等に活動記録や紹介冊子を置いておくなど、活動内容を大々的に掲示することによって活動のモチベーションにつなげてほしいと考えます。

5 施設紹介 鎌ケ谷市中央公民館

中央公民館ってこんなところ

中央公民館外観

皆さんは「鎌ケ谷市中央公民館」についてご存知でしょうか。2014 年 4 月にきらり鎌ケ谷市民会館内に移転しリニューアルを行い、清潔感が溢れる素晴らしい環境に生まれ変わりました。

新京成線「初富駅」から徒歩 3 分、道路を挟んで駐車場を有し、交通アクセスの抜群の良さがあります。「ショッピングプラザ鎌ヶ谷」の 3 階に位置しているので、利用前後の買い物もでき、大変便利で使いやすい施設となっている、県内でも珍しい、商業施設と一体化した公共施設です。中央公民館は、同じフロアにある「きらり鎌ケ谷市民会館　きらりホール」とともに、株式会社セイウンによって指定管理・運営されています。この特徴を活かして、2 施設を同時に活用した事業を今後展開していきたいとのことです。

中央公民館を利用する年齢層のなかでは、70 歳以上の方が最も多いそうです。多くの人々に中央公民館を利用してもらいたいと考え、若い人に向けたイベントも色々と企画・開催しています。令和 3 年度は簡単なロボットを制作し、さらにプログラミングして動かすという親子で楽しむことができる講座でした。今後も利用層の拡大を図っています。また、高齢者に向けても、現代社会において無くてはならないスマホの使い方に関して実践的な講習会なども考え中とのことです。「多くの人々がより広い知識を得てもらいたい」との考えから、各世代に適したイベントを常に展開しています。

そして最後に、この記事を読んで利用してみたいなと思った方にとって嬉しいシステムをご紹介します。それは、団体のみならず個人でも施設を利用できるようになったことです。例えば、1 人で楽器の練習をしたいと考えている場合、設定されている料金を支払うことにより、思う存分楽器の練習を行うことができます（※ 1）。ちなみに、17 時から 22 時まで（※ 2）の時間が比較的空いているとのことなので、仕事帰りに利用することも可能です。これまで中央公民館を利用したことがない方も、イベントポスターやチラシなどもたくさんあるので、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

（取材：千葉商科大学 戸川ゼミ 豊島）

（※ 1）楽器利用については要相談
（※ 2）新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響で
利用規定が変わることがありますのでお問合せください

三橋記念館と中央公民館

実は現在の姿になる前は「三橋記念館」が鎌ケ谷市の中央公民館として市民に親しまれてきました。当時の貴族院議員の故三橋彌（みはしわたる）氏が、昭和 9 年に鎌ケ谷尋常・高等小学校用地としてこの地を当時の鎌ケ谷村へ寄贈した記念として、昭和 53 年に三橋記念館が開館しました。現在の中央公民館にも、正面入り口を入って左側に三橋氏のレリーフがあります。

在りし日の三橋記念館

掲示スペース

学習室

これからの展望を館長にお聞きしました

Q「利用者の幅を広げたい」と話していましたが、具体的にどのようなアイデアを考えていますか？

久保田館長

久保田館長（以下、館長）―　今までは文学的なイベントが中心的で、千葉経済大学短期大学部の教授をお呼びして連続講座なども開催していましたが、日々世の中は動いているので、過去の良いところは継続しつつ、若い人が知りたいと思うことに対してアンテナを立て柔軟に対応していきたいと思っています。例えば子育て中の方や子ども向けの講座も増やしていきたいですし、日常生活に密着しているITというジャンルも取り入れていきたいと思っています。すでに企画しているのは、不足が問題になっている「半導体」について。それが生活にどう関わってくるのかを知るきっかけとなり、興味を持った方には深い学びにつながればと思います。

　また、ホームページを作成してイベントやサークル団体の活動紹介などの情報を発信しているのですが、スマホが苦手な方にはなかなか見ていただけません。そこで、基本的なこと、アプリの使い方等の講座を開催し、最終的にホームページを見てくださる人が増え、中央公民館に来ていただければという企画も考えております。

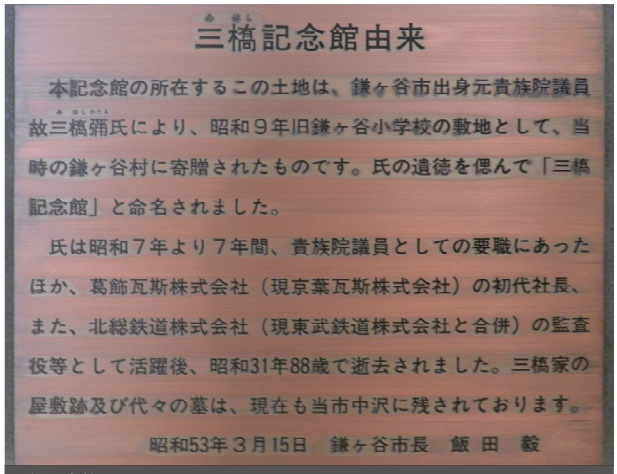
Q　新型コロナウイルス感染拡大防止対策などについて一言お願いします。

積極的に質問する豊島くん

館長―　はい、管理し始めてすぐに流行し、公共施設が閉鎖という事態になりました。各イベントは中止、サークル等の団体も活動が全くできない状態でした。この苦い思い出が繰り返されないように、利用者の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、徹底した新型コロナウイルス感染予防対策を続けていきますので、ご理解・ご協力を切にお願いいたします。

　また、中央公民館では独自のホームページを開設し、各サークルの紹介・各講座のご案内などのお知らせをしておりますので、ご活用ください。

※ご希望により、サークルのプロモーションビデオの制作（無料）のお手伝いもいたしておりますので、窓口にてお気軽にご相談ください。


三橋記念館由来

本記念館の所在するこの土地は、鎌ヶ谷市出身元貴族院議員故三橋彌氏により、昭和９年旧鎌ヶ谷小学校の敷地として、当時の鎌ヶ谷村に寄贈されたものです。氏の遺徳を偲んで「三橋記念館」と命名されました。

氏は昭和７年より７年間、貴族院議員としての要職にあったほか、葛飾瓦斯株式会社（現京葉瓦斯株式会社）の初代社長、また、北総鉄道株式会社（現東武鉄道株式会社と合併）の監査役等として活躍後、昭和31年88歳で逝去されました。三橋家の屋敷跡及び代々の墓は、現在も当市中沢に残されております。

昭和53年３月15日　鎌ヶ谷市長　飯田　毅

三橋記念館リレーフ

鎌ケ谷市中央公民館

〒273-0101　千葉県鎌ケ谷市富岡 1-1-3
ショッピングプラザ鎌ケ谷３階
TEL：047-445-2012　FAX：047-445-6777
休館日：年末年始（12/28 ～ 1/4）※臨時休館日あり
HP　https://kamagaya-chuokominkan.jp

戸川ゼミナール

岩崎：今回の活動を通して、自分たち若い世代だけでなく色々な世代の人々が新型コロナウイルスによって悪影響を受けているとわかりました。この先は自分のできることを地道にやりたいと感じました。

吉川：コロナの影響が個人レベルと団体レベルで大きく異なり、団体の対策を考えていくのは難しく、今までにない経験をこのプロジェクトを通してすることができました。Gaya の皆様、地域団体の皆様ありがとうございました。

徳永：鎌ケ谷市にお住まいの方々から直接お話を聞くことができるという貴重な経験をさせていただきました。

川田：チーム内の仲間と思いやって協力することができ、チームワークを育てることができました！

南部：ゼミとしての初めてのフィールドワークで、実際に鎌ケ谷の市民団体さんたちのお話を聞いてコロナ禍での現状を知ることができ、それを元に分析することでより理解が深まりました。

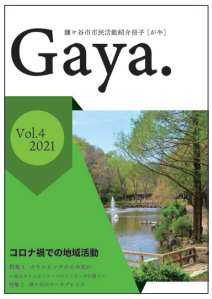
横田：今回の調査で、私たちには気づけない新たなコロナ禍の問題点も見つかりました。今回の経験を少しでも今後に活かせればと思います。調査にご協力頂いたみなさん、この度は、ありがとうございました。

鈴木：今回実際に団体の代表の方の話を聞いて、団体運営側の視線を感じられる貴重な経験でした。他の目線から考えることは後にも活かせることができると思いました。

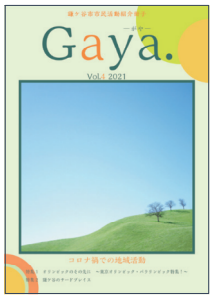
宮川：コロナ禍において、自治体活動に関わってる方の直の声を聞けて勉強になりました！活動の促進について考え、提言した事は、はじめてのことで、本活動を通して良い経験が出来たと思います！

岡田：コロナ禍における各地域のそれぞれ活動に着目する事で、その地域に寄り添った形の活性化について考えるいい機会になりました。

吉羽ゼミナール



金平 大和（2 年）



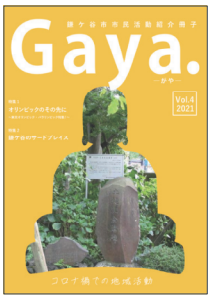
金丸 櫻（2 年）

齋藤 仁菜（2 年）

芝元 摩莉亜（2 年）

中澤 麻紀（3 年）

中澤 麻紀（3 年）



夏見 俊輝（2 年）

山田 里桜（2 年）

横田 音央（3 年）

CHEN YIZHENG（2 年）

吉羽ゼミナールでは学内だけでなく、学外からもポスターデザインなどの依頼を受け、実践的なデザインワークに取り組んでいます。

『Gaya Vol.4』では表紙デザインから中面ページのレイアウトデザインの依頼をいただき、表紙デザインはゼミ生それぞれに鎌ケ谷市のイメージをふまえ、たくさんの方々に手に取ってもらえるようなデザインを考えました。

採用とならなかったデザイン案にも“かまらぼ”のみなさんからコメントをいただき、とても貴重な機会となりました。

（ゼミ指導教員：吉羽）

編集後記――　Gaya 編集部

かまらぼ代表の甲斐さん、伊藤さんをはじめ、『Gaya』編集の野際さん、校正を担当された大石さん、そしてデザイン作成編集担当の吉羽先生およびゼミ生の方々、有難うございました。また、指導教員（戸川）が至らない中、ゼミ生の皆さん、頑張りましたね。地域を支え、紡ぐ人々の声を、ささやかながら読者の皆様にお届けできれば幸いです。調査のご協力して頂いた皆様に御礼申し上げます。　**戸川和成（千葉商科大学政策情報学部 助教）**

コロナの不安が続く中、市民活動やサークル活動を継続している方たちの、前向きでしなやかに活動を続けている様子がとても頼もしいと感じました。また今回は千葉商科大学の２つのゼミに力を貸していただき、いつもとちょっと違う Gaya に仕上がりました。この冊子を通じて誰かの心地よい居場所が１つでも増えると良いなと思います。制作に関わった皆様には心から感謝いたします。

かまらぼ：甲斐貴子・今泉哲男・伊藤直子・佐藤広子・高瀬大和・庄司洪・大石果菜（校正）・玉村泰樹／ヒアリング撮影：甲斐真人

今回も制作に参加させていただきましたが、改めて地域媒体の面白さや可能性を感じました。毎年、色んな方を巻き込んで作られていく Gaya。こんなに柔軟な媒体はなかなかないのではないかと思います。これからも楽しみです！　**野際里枝（N-style：進行管理）**

鎌ケ谷市　市民活動紹介冊子

Gaya －がや－ Vol.4

発　行：2022 年 2 月
発行元：一般社団法人 鎌ケ谷マネジメントラボ

この冊子についてのお問合せ、活動についてのご相談は、

一般社団法人 鎌ケ谷マネジメントラボ
kamalabo.info@gmail.com
080－4200－4780

までお願いします。

記事を読み、団体のことをもっと知りたいと感じたら…鎌ケ谷市市民活動推進センターのホームページに「団体一覧」が掲載されています。そちらもご覧ください。

鎌ケ谷市市民活動推進センター
http://www.collabo-kamagaya.jp/

一般社団法人

鎌ケ谷マネジメントラボ（略称：かまらぼ）

かまらぼ

わくわくする
居場所もってる？

NPO・市民活動団体への中間支援を通して
「自分らしく関われる居場所」を世の中に増やす活動を行っています。

【団体の取り組み】

■NPO･市民活動団体の支援･団体間交流の促進：
連携のための出会いの機会・意見交換や交流の場づくりの実施

■団体運営の支援：
事業構築のサポート・相談などの伴走支援・オンラインツール等の導入支援

■地域デビューの支援：
ボランティアマッチングの相談・団体立ち上げの相談・伴走支援

■市内の市民活動に関する情報発信：
市民活動紹介冊子・チラシの作成・イベント出展など

■各種講座・ワークショップなどの企画・実施：
講師の手配も致しますのでご相談ください。

【まずは「あなた」のお話を聞かせてください！】

・新しいことを始めたいけど、結局いつも通り…
・会員が思うように集まらない。
　何かアイデアはないかなぁ
・一人で団体のことを抱え込みがちで、
　ちょっと話がしたい
・子育て中だけど、何か地域のつながりを
　つくりたい！
・仕事で土日しか地元に居ないけど、
　地域と関わりたい
・団体（サークル）を作りたい。
　何から手を付ければいいの？

などなど、お気軽にお声かけください！

一般社団法人
鎌ケ谷マネジメントラボ

沙まらぼ

Since 2016

わくわくする居場所もってる？

地域活動に関すること、講座、
交流会など
お気軽にご連絡ください。

kamalabo.info@gmail.com
https://kamalabo.wordpress.com

裏表紙デザイン：千葉商科大学 政策情報学部 齋藤仁菜